

憲法9条の平和主義を考える

南西諸島への中距離ミサイル配備の意味するもの
- 「台湾有事」の行き着く先 -

南西諸島（鹿児島～沖縄）に自衛隊の基地が次々と新設され、中国本土も射程に入る中距離ミサイルが配備されようとしています。

「台湾有事」が起きれば、米軍も南西諸島にミサイルを配備する計画で、住民は「島が戦場になるのでは」と不安を募らせています。

こうした動きと憲法との関係をどう考えたらいいのか。

20年以上にわたって日米同盟の動向を追いかけ、近年は南西諸島を回って取材してきた講師から現状報告と問題提起をしていただきます。



ふ せ ゆうじん

講演：布施祐仁さん（フリージャーナリスト）

1976年生まれ。20年余、外交安全保障・軍事問題を中心に取材。今年、『自衛隊海外派遣 隠された「戦地」の現実』（集英社新書）と『日米同盟・最後のリスク なぜ米軍のミサイルが日本に配備されるのか』（創元社）の2冊を上梓。『ルポ・イチエフ 福島第一原発レベル7の現場』（岩波書店、2012年）で平和協同ジャーナリスト基金賞大賞、日本ジャーナリスト会議のJCJ賞、『日報隠蔽 南スーダンで自衛隊は何を見たのか』（三浦英之氏との共著、集英社、2018年）で石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。

入場無料
手話通訳あり

日時：2023年1月28日(土) 午後1:30～4:45 (開場1:00)

会場：千葉県弁護士会館 3階講堂
(千葉市中央区中央4-13-9)



主催：千葉県弁護士会 共催：日本弁護士連合会 関東弁護士会連合会